

日本林政ジャーナリストの会 令和7年度第2回研究会

「里山広葉樹林の再生に向けて～林野庁国産広葉樹利活用推進チームの挑戦～」
林野庁森林整備部長 長崎屋圭太氏

日時:令和7年5月21日(水) 15:30～17:30

場所: 林友ビル6F 中会議室 東京都文京区後楽1-7-12

日本の里山林は、地域住民の日々の暮らし・生業と密接に結びついて形成された森林であり、定期的に伐採され、林内も比較的明るく保たれ、独自の森林生態系が形成されてきました。しかし、昭和30年頃からの燃料革命により、地域住民の里山利用は大きく縮小し、多くは放置されるようになり、放置里山林は全国で300～400万にもなると推定されています。このため、老齢化した大径木が増えて、カシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害が全国で拡大し、森林生態系に悪影響を及ぼし、森林の公益的機能の低下も懸念されています。



このため、林野庁は、学識経験者で構成される「里山広葉樹利活用推進会議」を開催し、令和7年3月に提言をまとめるとともに、林野庁内に「国産広葉樹利活用推進チーム」を創設して、里山広葉樹材の利活用の推進と、それによる里山広葉樹林の再生を目指しています。今回の研究会においては、林野庁森林整備部長の長崎屋圭太氏を講師にお招きして、里山広葉樹林を再生する意義や里山広葉樹材の利活用を進める上で重視すべき点などについてお話を伺います。

参加希望の方は、氏名、所属及び連絡先をご記入のうえで、令和7年5月12日(月)までに日本林政ジャーナリストの会幹事・事務局長の上河潔 (k.kamikawa@live.jp) までお申し込みください。